兵庫県宍粟郡と近接地の植物文化財（4）

建　部　恵　潤

49. 神崎郡福崎町西谷八幡神社社叢

南面した山麓にあって，県道三木山崎線に接し，中国自動車道にも近い社叢で，規模は余り広くない。

植生の保存が良いのは社域の西側，特に麓である。本社叢の特色はツガの多いことであるが，この部分は特に巨木が多く，高木層の主要素になっている。

ツガはこの地方では標高600～800mの背稜部に自生しモミと混生することが多い。ときにモミ，ヒメコマツと混生することもある。（昭和47年飾磨郡夢前町熊部の標高750m地点で見た）

西播磨内陸部の社叢ではモミが出ることが多い。モミは標高100mの低地にも自生するので低地の社叢に出現しても不思議ではない。ツガは上述のようにモミよりかなり高地に限られるから，本社叢のツガは自生とはいい難いが，若齢樹から老齢樹まで境内を囲む社叢に多数見られ，自生状を呈している。

その中で最大の巨樹は根周3m，目通り2.45m，樹高約25mある。このような巨樹は珍しい。注目すべきは樹皮の割れ方で，クロマツによく似た割れが見られる。ツガ老齢樹の樹皮の標本として貴重である。本社叢は上述のように，若齢樹からこの老齢樹まであるので，樹齢による樹皮の割れの段階を観察することができる。

高木層はツガのほかシラカシ，アラカシ，ヒノキ，アカマツ，ツブラシイから成っている。この中ツブラシイは目通り1.50mのものが最大で，わずかに残存するに過ぎない。

低木層はヒノキ，サカキ，ネズミモチ，ヤブニッケイヒサカキ，カナメモチ，ソヨゴ，ヤマモモ，ナワシログミ，ナナメノキ，クチナシ，クリ，ナツハゼ，リョウブ，イモノキ，イロハモミジ，ヤマウルシなどからなっている。また東の周辺部にはコバノミツバツツジ，モチツツジがある。

図51　目通り2.45mの老樹のツガ樹幹

図52　目通1mの壮齢樹のツガ樹幹

この中でヤマモモは分布上注目すべきである。北緯35°付近までヤマモモが入りこんでいるのは珍しい。筆者は西播内陸部では宍粟郡安富町名坂に産するのを知るに過ぎない。（兵庫生物，第6巻，第2号，1970）

このように，本社叢はツガを主要素とするこの地方では類例の少ない樹林で，かつ分布上注目すべきヤマモモが自生する貴重なものであるから保護保存の必要がある。

50. 神崎郡福崎町大貫（おおぬき）天満神社社叢

北から南の平坦部へ突出した丘陵上にあり，麓には民家がある。南に県道三木山崎線が通じ，さらに田を隔てて中国自動車道が通じ，車中からも本社叢がよく見える。

社叢は麓の民家，畠に接した部分は破壊され，竹林になった部分もあって，中腹より上に自然的状態で残っている。社殿と参道を結ぶ線を中心に，東と西では植生に対象的な違いが見られる。

頂上部（社殿の裏）から西側にはツブラジイを主要素とし，アラカシ，シラカシ，サカキを交える，この地方の典型的なシイ林が発達している。頂上部付近ではヒノキ，ツガが混在している。

図53　大貫天満神社社叢（全景）

これに対し，東側はツガが主要素で高木層をつくり，アカマツ，アラカシ，シラカシが亜高木層をつくっていて，西谷八幡神社社叢に似た林相である。

人工が加わって，東西を折半した植生が見られるに到ったのであろうが，シイ林とツガ林が同時に見られる珍しい社叢である。現状を維持しておきたい社叢である。

51. 神崎郡福崎町余田（よでん）大歳神社社叢

平坦地にあるかなり面積の広い社叢である。北は道路に接し，その北は水田である。西から南は道路に接し，その外側は民家である。東側は民家に接している。

本社叢の構成要素の主体はツブラジイで，大木の多いみごとな極相林である。社殿は社域の北よりにあり，拝殿はかなり離れて社域のほぼ中央にあって，その南に広場がある。南北に長い長方形の境内の周囲がシイ林になっている。

ツブラジイを主要素とするが，ヒノキ，サカキも高木層の要素になっている。特にヒノキが多い。

亜高木層はアラカシ，ヤブツバキ，ナナメノキ，サカキ，カナメモチ，ネズミモチ，ケヤキ，ヒノキを要素にしている。

低木層にはサカキ，ネズミモチ，アカメガシワ，カナメモチ，ヒサカキ，イモノキ，シイ，アラカシ，ヤブツバキ，クチナシなどがみられる。

草本層はマンリョウ，ヒサカキ，サカキ，アラカシ，ネズミモチ，クチナシ，イモノキ，ヤブツバキ，サルトリイバラ，サネカズラ，ネササ，ベニシダなどが見られる。

ツブラジイの最大のものは拝殿を入った東側にある目通り3.85mの巨樹で，目通り2m以上の大木も多い。特に西南部は大木が多く保存状態が最もよい。シイの純林に近く，低木層，草本層がほとんど見られない。

図54　余田大歳神社社叢（全景）

本社叢はこの付近のシイ林の中で，かなり規模の大きいもので，樹齢も古く貴重であるから保護保存が望ましい。それについて，西北部に1部伐採してヒノキの植林がしてある。これ以上シイ林を破壊することは避けるべきである。また北側の道路から社叢へ入るのは極めて容易で，まばらなシイの大木の間は自動車の駐車場に利用されているようである。シイの大木以外は伐られ，下草もなくなっている。調査当日も町の公用車が駐車していた。保護対策が望まれる。

52　神崎郡福崎町南大貫大年神社のイチイガシ

前に福崎町山崎二宮神社は芽生えから巨木まで多数のイチイガシが見られる社叢であることを報告した。（兵庫生物，第6巻第4号，1973）

本社叢のイチイガシは目通り2m未満のものばかりであるが8株ある。社叢の高木がほとんど伐採されているので，遠くからもよく目立っている。

大年神社は西へゆるやかに傾斜する山の中腹にあり，登って行くと神門がある。その北は運動場，南はヒノキの植林地になっている。この上が境内であるが，社殿は上方に南面してあり，下には広場がある。この広場や運動場は近年整備されたようである。

イチイガシは広場の入口に2株，社殿の下方に2株，境内の上方に4株，合計8株ある。広場入口の2株は1.85m，1.75m，樹高30mある。他の6株もほぼ同じ大きさである。

イチイガシは境内の上下に，境内にそってほぼ1列に配植したようである。近年周辺の高木を伐採したようであるから，イチイガシの中には伐られたものがあったかも知れない。

この地方ではイチイガシは社叢以外では見られない。それもわずかである。たとえ栽植したものであっても保存したいものである。

イチイガシは樹幹に当たる日光の量によって，樹皮の色，剝離に差ができるようである。日光がよく当たるほど白色が強くなり，表皮の剝離が著しいようである。

図56 南大貫大年神社のイチイガシ

ここのイチイガシは下枝がないので，日光が直射しこの特性が顕著で，白い樹幹がすこぶる印象的である。

このような大木は二宮神社でも見られるが，本社叢のイチイガシも特異な樹皮を観察するのに適切で，研究資料として保存が望ましい。

53. 神崎郡福崎町余田 嶺雲寺のクロガネモチ

前記余田大歳神社の北の道を東へ少し行ったところに嶺雲寺がある。山門を入った左に，土塀に接して，福崎町の町木クロガネモチの大木がある。樹下に墓石があり山門，土塀，墓石にかこまれた状態である。

根回3.05m，目通り2.25mある。樹高2m付近に土塀側へ伸びる第1枝があるが，この付近から他の方角へ出て横へ伸びる他の枝は伐られたようである。それから約50cm上で幹を伐ったと思われ，ほとんど同じ高さで上向きに伸びた枝が3幹となり，南のものが最も高く伸びている。枝は南へ張り出し，境内の外の道路を被っている。

高さ約20mあり，特に大木とはいえないが，樹勢が盛んで，将来さらに巨木になるであろう。

図56 嶺雲寺のクロガネモチ（樹冠）

54. 宍粟郡安富町名坂のサイカチ

サイカチは小枝の変った鋭いとげがあるので嫌って，幼木のうちに伐ったのか，大木の稀な樹種である。

名坂字下河（げご）のサイカチは稀にみる大木である。山が林田川にせまり，山すそに県道が通じているが，サイカチは県道の川よりの道端にある。

樹幹は高さ約３ｍで南北に分岐している。根張りは現れず，根周3.60ｍ，目通り3.20ｍ，樹高約20ｍある。

枝張りは北へ10ｍ，南へ7.70ｍ，東へ7.20ｍ，西へ６ｍあって，よく整った樹形をしている。

樹幹はキヅタが上方まで被い，基幹にサルノコシカケが生じている。樹勢は旺盛で，落葉後のさやをたくさん着けた樹姿は見事である。

本樹は稀有のサイカチの大木として，安富町自然保護条例によって保存樹に指定されている。県道拡幅に当っても保存されるよう希望する。

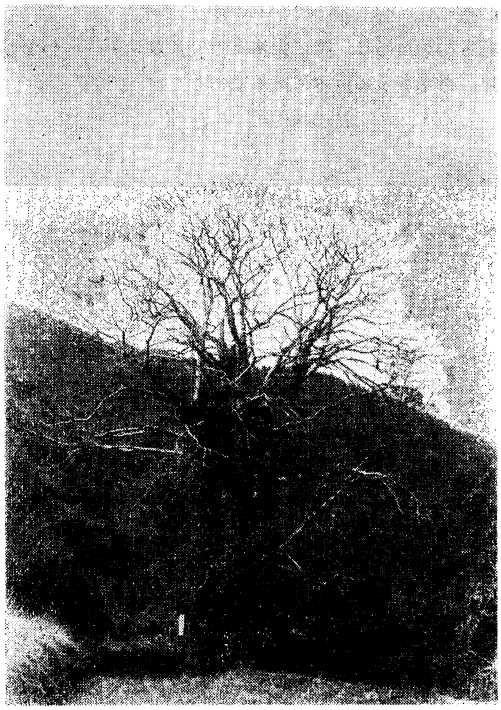

図57　下河のサイカチ（冬落果後）

55　揖保郡新宮町上笹荒神社のムクノキ

西に面した山の先端部に荒神社があり，そのほとりにムクノキの大木がある。

根周６ｍ，目通り4.40ｍあり，樹幹は高さ約５ｍで，ほぼ南北に２幹に分れる。高さ約10ｍの付近から小枝を出し，北へ15ｍ，南へ14ｍ，東へ8.50ｍ，西へ10ｍの枝張りで，傘状の樹形をしている。樹高は約27ｍある。

非常に整った樹形の大木で，樹勢旺盛であるから，基幹に損傷を与えないよう保護すると，ますます優れた巨樹になるであろう。

本樹は大木の所在地として，恵まれた立地条件にあるやや若齢であるが，将来性を考慮すると天然記念物に指定し，保護保存を図るのがよいと思う。

図58　上笹のムクノキ

56　龍野市島田のエノキ

集落の中央部にあり，北側に道路をへだてて建速神社があって，周辺部は空地になっている。

根張りが顕著に現れ，根周りは6.10ｍ，目通り3.60ｍで，高さ約９ｍで３幹に分れ，樹高約28ｍに達する。

高さ約５ｍと６ｍにあった枝は切断したようで痕跡が

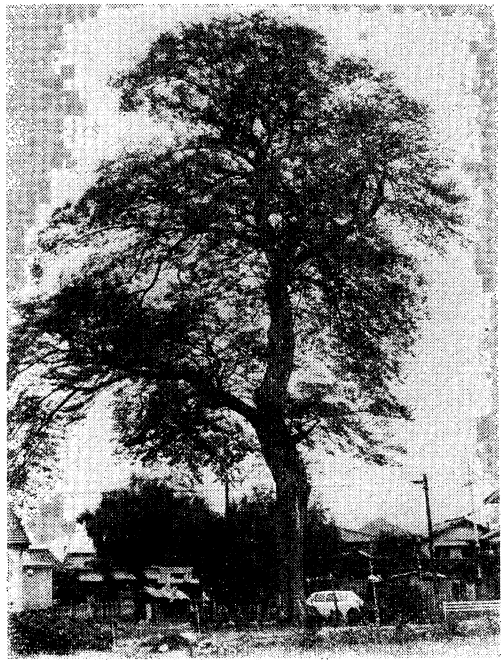

図59　島田のエノキ

残っている。枝張りは北へ10.50m，南へ5.70m，南へ5.70m，東へ9.60m，西へ7.70mあるが，北西へのびる枝は太くて長く10.50mに達する。

本樹はエノキの巨木として，特に樹高に於て優秀で，かなり遠方からも，民家の屋根より高くそびえる本樹を見ることができる。ただ根張り，樹幹が損傷を受けやすい条件にあるから保護が必要である。

樹勢旺盛であるから，損傷を与えなければ優れた巨樹になるであろう。したがって，本樹は天然記念物の有力候補になるものであろう。

57. 龍野市龍野町浅井弥兵衛氏邸のエノキ

東丸醤油株式会社専務浅井弥兵衛氏邸は龍野藩次席家老脇坂玄藩の邸宅跡である。庭園の東北隅に稲荷社がある。脇坂氏入封より前寛永3年（1626）小笠原長次が新封され，入封に当って，父秀政の旧領信濃飯田から移したという所伝がある。このほとりのエノキは神木として植えたといわれる。

根周9.00m，目通り4.90m，樹高約40mのこの地方に稀なエノキの巨樹である。高さ約10mで3幹となり，それから上に枝を出し傘状の樹幹をつくっている。枝張りは周囲の家屋上にあって測定困難であるが，西は庭園で測定すると12mある。北，南，東もそれぞれほぼ同程度であろう。

図60 浅井邸のエノキ

本樹の樹齢は稲荷社の所伝，脇坂氏入封年次の元禄14年（1701）在銘石灯籠等を勘案して約300年としてよいと思う。

兵庫県にはまだエノキの天然記念物がないこと，県下稀有のエノキであること，樹齢がほぼ正確に推定できることなどから，有力な天然記念物候補として推賞したい。

58 龍野市日飼（ひがい）のクスノキ

揖保川の東岸に島田から龍野大橋東詰へ通じる市道がある。日飼の旧家堀家の西の川岸にクスノキの巨樹がある。市道もこの部分は幅員が狭めてある。

根周7.40m，目通り6.60m，樹高約23mの巨樹である基幹は約2mあり，ここから3幹に分れ，さらに枝を分って8本の幹となり，中には鈍角に外縁へ斜上するものもあるが，特に西へのびる太い枝は川敷の上へのびている。しかし，この枝の先端だけに枯枝がある。枝張りは北へ12.50m，南へ10m，東へ6.50m，西へ約16mある

兵庫県南部にはクスノキが多く，県木になっている。特に内海沿岸に近い地方には大木がある。神戸市灘区神前町の神前の大クス，伊丹市法厳寺の大クス，川西市小戸神社の大クス，西宮市海清寺の大クスは県下屈指の巨樹で，県の天然記念物に指定されている。いずれも目通り8m以上，樹高30m前後の巨樹である。

これらの老巨樹に較べると，本樹はかなり小さい。しかし播磨西部では数少ない巨樹であるから保護保存を図らねばならないと考える。市道へはみ出しているので，樹幹が傷つく恐れが多分にある。あるいは伐採問題がおきるかも知れない。自然保護思想の進んだ国では決して伐採するとはいわず，道路の方を考えるものである。土地の人や関係者は対策をたてていただき保存を図られたいものである。

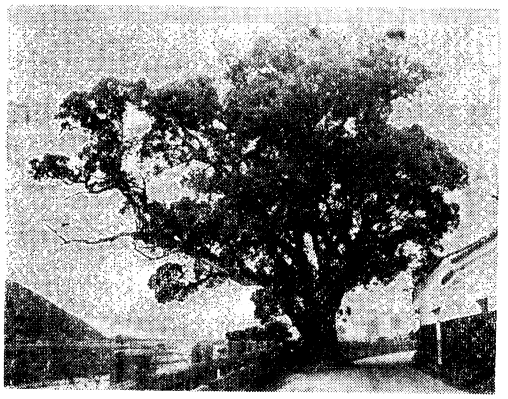

図61 日飼のクスノキ

59　揖保郡新宮町市野保八幡神社社叢

この社叢は山麓の低いところにあるので，あまり目立たない。かなり高木もあり，構成要素には注目すべき種類がある。

高木層はスギ，ヒノキ，モミ，サカキ，アラカシ，クスノキ，カゴノキ，ケヤキ，ヤマザクラから成るが，特に優占する要素はない。ケヤキの巨木があるのが著しい。

亜高木層にはサカキ，アラカシ，カゴノキ，ヤブツバキ，イヌマキがあるが，カゴノキ，イヌマキは注目してよい。

低木層はスギ，ヒノキ，イヌマキ，ヤブツバキ，サカキ，アラカシ，シロダモ，ネズミモチ，タラヨウ，ヒサカキ，コヤスノキ，ムラサキシキブ，アオキ，アカメガシワ，ニワトコが見られる。部分的な相違があるが，アラカシ，ヤブツバキ，シロダモが多い。

草木層はケヤキ，エノキ，ヤブツバキ，ネズミモチ，タラヨウ，カゴノキ，サカキ，ヒサカキ，アオキ，ネムノキ，イヌシデ，コンテリギ，コヤスノキ，マンリョウ，ドクダミ，チゴユリ，シャガ，ネザサ，ベニシダ，シシガシラが多く，主として境内より東の林中に多い。境内より西は社叢の西に竹林があり，社叢に侵入している。その影響のためが草本層が極めて貧弱である。周辺部にはヌスビトハギ，イノコズチ，ミズヒキ，キンミズヒキ，チヂミザサが顕著である。社殿裏の切りくずした部分にはコシダ，ウラジロ，ゼンマイがあり，またクズが侵入している。

つる植物にはテイカカズラ，ビナンカズラ，キズタ，イタビカズラ，ヤマフジ，スズメウリが見られるが貧弱である。

本社叢の注目すべき事項は，①ケヤキの大木があること，②イヌマキ，カゴノキが各層にあること，③コヤスノキ（新産地）があることの3点である。

ケヤキ，イヌマキ，カゴノキの最も大きいものの計測値はつぎのとおりである。

樹　種	根周(m)	目通(m)	樹高(m)
ケヤキ	8.00	4.00	約 40
イヌマキ	1.20	1.05	約 20
カゴノキ	1.10	85	約 20

追記　①　目通り幹周は1.50m高幹周

②　根周は測定位置の決定困難な場合が多い。最も妥当と思われる位置をえらんではいるが，多少の差がある。

③　樹高は目測によった。

④　今回の調査は全部志水出世氏のご協力によった。深く感謝します。

おことわり

本誌に毎号ご執筆いただいております京都大学の村田源先生の〝近畿地方植物誌〟は先生がこのたび急にボルネオへ調査研究のために出張されましたため，本号には掲載されておりませんので，悪しからずご了承くださいますようお願いします。

第33回　生物学会総会ご案内

とき　昭和54年5月　25（金），26（土）

ところ　但馬支部

上記の予定になっておりますので，研究発表等ご希望の方は予めご準備おきください。